

栃木支部活動報告

埼玉・群馬・栃木支部合同研修会

日時 平成23年2月20日 日曜日
午前10時から午後4時45分

場所 埼玉大学教育学部附属小学校

参加者 5名

鈴木真一支部長 大島勝美先生 臼井誠先生

古平暁子先生 事務局出井

記録 事務局 出井



内容

講演1 「理科における『学び方アイテム』の利用をめざして」

—メタ認知に焦点を当てて— 淑徳大学教授 加藤尚裕先生

メタ認知とは、一段高い所からもうひとりの自分が、自分を見て評価したり、網一人の自分に声をかけたりするような、認知の仕方ができることで、メタ認知が高い子は学力が高く、低い子は学力も低い。そこで、理科における各学年の問題解決能力、比較・関係づけ・条件の統一・推論・分析、解釈を「学び方アイテム」として利用し、学力をつけていこうとするものでした。理科の問題解決能力は、他教科でも使える考え方だそうです。具体的に授業の中のどのような場面で使うか、どのような発言やつぶやきがメタ認知に当たるか、丁寧に説明していただきました。自らの事象に対する認知状態をモニタリングしたり、自分の考えを第三者的な視点から振り返る思考活動をしたりするために、「学び方アイテム」を活用し、科学的概念の獲得に効果が期待できるとのことでした。

実践発表 栃木支部 栃木市立栃木第三小学校 臼井誠先生

～もの作りを通したグループ学習の実践～

4年「電気のはたらき」の単元を通して、グループ学習を効果的に行うための工夫について発表されました。おもちゃ作りの場面でグループをチームとして活動させ、作ったおもちゃを3年生に評価してもらうということで、グループ間の競争意識を刺激した。結果として、グループの一体感が高まり、グループ学習に対する好感度が上昇したことが挙げられます。グループ学習をさせることで、学び合いを成立させることができたことが成果としてあげられます。

埼玉支部 埼玉大学附属小学校 杉山直樹先生

「思考力・表現力を育むための指導と評価の実践事例」

考察をする際に話形を導入しているというお話でした。実験結果と考察を明確に分けて記述するようながしているとのことでした。

埼玉支部 さいたま市立岩瀬中学校 安藤幸子先生

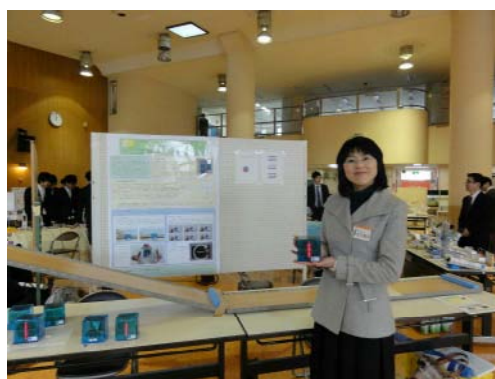
「学力の定着をうながす教えて考えさせる授業の実践」

理論的なことにとどまらず、実験操作の部分も評価し、確実な学力の定着を計っているという内容でした。

ワークショップ

栃木市立栃木西中学校 古平暁子先生

～ Fi-cube を利用した、力学の学習について～
加速度を感知し、光点で表示する教材を開発しています。抗力や重力、坂道を滑り降りるときの力の掛かり方が表示されます。まだ、量産されていないので、値段が2万と高いのが難点です。興味のある方は、古平先生または、宇大 伊東研究室までお問い合わせください。



埼玉支部活動報告

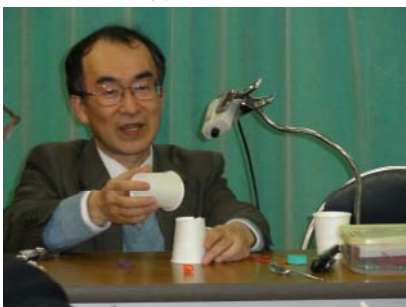
若手教員研修会、東日本ブロック別研修会、中央特別研修会、学年部会報告
埼玉支部は、各学年ごとの部会があり、活発な活動報告がされていました。

ソニー教育財団より

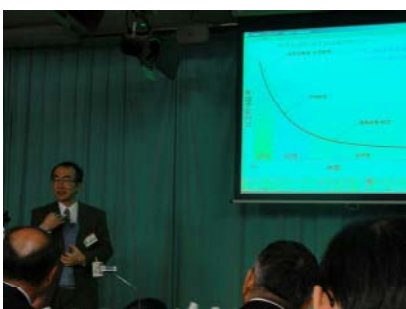
2011年度の論文募集について 本年度の改善点など

講演2 日本理科教育支援センター 理科コンサルタント 小森英治先生

「理科は感動だ！～シングルエイジサイエンスのすすめ～」



小森先生は、3年前に蓮田南中学校をご退職され、お一人で日本理科教育支援センターを立ち上げられました。今は、ナリカの協力で都内に教師向けの観察・実験をするための指導センターを設けています。



最近、幼稚園や保育所からも科学遊びを教えてくださいとの依頼があるそうで、訪問を重ねる中で幼児教育の必要性に気付かれたとのこと。中でも、音に関する内容は、新学習指導要領でも小学校課程に盛り込まれていない内容です。従って、中学生になっていきなり音の学習をすることになり、波形がどうの、周波数がどうのという難しい話で音の学習をしなければならない訳です。これでは実感を伴った理解を図れるはずがありません。もっと小さいうちに、音は振動で伝わることを体験させておくべきだとおっしゃっていました。

尚、小森先生自作自演の「はじめての理科実験」―安全・確実に実験するために―のDVDを購入してきましたので、興味のある方は事務局出井までお声かけください。

散会后、支部長鈴木先生と事務局出井は懇親会に参加しました。これからも埼玉支部との連携を図っていきたいと思います。